

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291400014		
法人名	営利法人 矢崎総業株式会社		
事業所名	ヤザキケアセンター 紙ふうせん		
所在地	静岡県裾野市御宿1500		
自己評価作成日	平成30年1月10日	評価結果市町村受理日	平成30年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;lgvosyoCd=2291400014-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;lgvosyoCd=2291400014-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成30年1月29日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

矢崎総業の中にありますが、敷地内は、緑も多く、天気の良い日は、食堂から、雄大な富士山や、春には300本を超える桜並木を見る事が出来ます。また、紙ふうせん敷地内も、畑や庭もあり、グループホームの敷地面積も広々とし、ゆったりとした空間になっています。また、1~2か月に外出をし、矢崎の外の景色や、季節感を楽しんで頂いたり、ご家族様との交流の場を設ける等、計画や企画に力を入れています。職員は、定期的にカンファレンスの時間等を利用して、認知症の理解を深めるためにディスカッションや、研修等を行っています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所のある「紙ふうせん」の中には、居宅介護支援・通所介護がある。運営推進委員会では、スライドショー等で事業所の活動を分かりやすく報告している。近隣の幼稚園児と梅干し作りをして、できた梅干しを敬老の日のおにぎりに使用している。成長した子どもたちが覚えていて大人に伝える等、一つのレクリエーションがその後の行事や人との関わりにも繋がっている。法人本部は、介護予防や高齢者生活支援分野において厚生労働省老健局長賞企業部門の優良賞を受賞している。事業所はパーソン・センタード・ケアを実践し、長期的な視野を持って福祉や介護、地域交流に対し積極的に取り組んでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『わたしたちは認知症を持つ人とともに歩むとき、彼らを行為の主体者と認め、対応することをめざし、常に本人の心の声を聴こうとするパートナーでありたい』という理念のもと、毎日の支援に取り組んでいます。	「人とともに、地域とともに、わたしたちができること」として、利用者を尊重しその人の立場に立って理解し介護を行う、パーソン・センタード・ケアの取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	矢崎自治区に加入し、交流を行っています。また、敷地内にある保育園との交流も行っています。普段より、施設内の庭や、飼っているウサギを見に、近所の方が気軽に立ち寄られています。災害時等の緊急時の連携も取り始めています。	隣接するデイサービスの利用者や保育園児・社宅の子どもたち等、本部自治区内で交流している。また、ボランティアの訪問や地元の祭りに参加する等、地域との交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学生の職場体験、実習の受け入れを行っています。また、施設のお祭り等の機会に、地域の方に認知症の方の理解や支援を呼びかけています。サロン等も開催し、参加者と理解を深める時間を作っています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催をし、ご利用者本人、ご家族、区長、自治会長、民生委員、包括の代表の皆様と話し合い、サービスの向上に努めています。	運営推進会議には利用者や区長・自治会長・民生委員等が参加し意見交換をしている。スライドショーで利用者の日常生活や行事への参加など、事業所での出来事を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括主催の、地域調整会議に参加をしています。裾野市主催のふれあい広場に毎年、参加、出店をしています。認定調査の更新の際、ご家族の代行として、介護保険室に申請に伺っています。	市開催の福祉まつりに紙ふうせんのブースを出し、自治体の夏まつりにはパン販売で参加している。地域包括支援センター主催の地域調整会議に参加したり、市役所には事故報告やヒヤリハットの報告をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をし、ポスターを玄関ホールに掲示してあります。毎年、開催される、「身体拘束廃止フォーラム」に参加をしています。また、部門長会議で、身体拘束委員会を行い、各部署にて内部研修を行っています。	身体拘束委員会があり、職員一人ひとりがパーソン・センタード・ケアについての本を持ち、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。月例会議でも毎回身体拘束に関するテーマを上げて、勉強会を行っている。	パーソン・センタード・ケアの取り組みで職員の意識に変化が出始めている。認知症についての理解が深まり、身体拘束をしない介護の取り組みが継続されることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に、外部研修の受講を代表者が行い、内部研修を行う事で、職員全体が、理解を深めてい行く事が出来るような体制作りをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて制度については学び、職員全体にも内部研修を行っています。現在は、いらっしやいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては、申し込みから契約に至るまでの間、必要であれば複数回ご家族と面談を行い、ご家族の疑問や、不安が解消されるよう、十分に話し合いや説明を行うよう、心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に職員の顔を知って頂けるよう、顔写真の掲示を行っています。 また、外出等の際にご家族をお誘いしたり、施設行事への参加をご案内し、グループ長、サブリーダーが、ご家族とお話を出来る機会を設けています。	事業所の行事に家族の参加が多く、気になる事や心配事などは意見箱を利用せず直接意見を言ってもらえる。家族からの意見や、利用者の意見は連絡ノートで職員が共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝のミーティングや業務改善活動の中で出てきた意見を、月に1回のカンファレンス等で話し合いを行い、提案を反映する事が出来るようなシステムづくりを行っています。	連絡ノートを活用して、朝のミーティング等で全職員が情報を共有をしている。職員からの意見は随時聴き取り、月1回のカンファレンスで話し合いをしている。TQC活動を取り入れて運営に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新の際に、自己評価をまず行い、上司と面接を行った上で、給与の見直し等を行っています。また、希望があれば外部研修にも積極的に参加をして頂き、モチベーションにつなげています。処遇改善加算は、賞与に反映しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加を行い、現在は、部門長会議で研修参加者が発表をし、各部門に持ち帰り、カンファレンスを利用して、内部研修を行い、全体にスキルアップを行えるような体制にしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成27年3月に裾野市グループホーム連絡協議会を立ち上げており、行政を交えた話し合いの場を設けています。また、お互いの施設の行事の際には声の掛け合いをし、招いたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言葉からの訴えだけではなく、多面的に物事をとらえ、言葉の奥にある本当の気持ち、表情等の訴えをくみ取る事が出来るよう寄り添い、信頼関係を築くことが出来るよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と連絡を密に行い、面談する機会を設け、利用者様だけではなく、ご家族の不安な気持ちや思いを安心してご相談いただけるよう配慮をおこなっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性があるかどうかを検討し、すぐにこちらのサービスが提供できない場合は他のサービスの利用もご案内を行い、検討をして頂く事が出来るよう、対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の残存機能を把握し、職員同士情報を共有して、出来る事は行って頂いています。また一緒に掃除等の作業を行い、暮らしを共にする関係を築けるよう努力を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力が必要である事のご理解を頂けるよう、お話をしています。また、行事等のお誘いを行うなどして、面会に来て下さるような気軽に来所しやすい雰囲気作りも行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも受け入れています。ご家族のみではなく、知人、ご友人など気軽に立ち寄れる環境にしています。通所ご利用の方が友人のご利用者に面会に来る事もあります。	友人や家族の面会がある。事業所の梅干し作りに参加した子どもが大きくなっても覚えていたり、利用者同士が仲良くなったりする等、入居後に新しい顔なじみの関係ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者が快適に過ごす事が出来るように、ご利用者同士の関係も把握し、必要時には、間に入り、配慮を行っています。また、孤立する事が無いよう、お話を傾聴するなどかかわり合いを持つよう心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療ニーズが高くなっての利用終了が多いため終了後も、入院、転院、退院、入所といった変化に対応し、常にご家族、医療機関と連絡を取り合い相談、支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者を中心にカンファレンスの時間を利用し、「認知症ケア」等の内部研修を行い、思いを汲み取るという事の大切さを学び、日々の業務に活かしています。	帰宅願望がある利用者には、ドライブをしながら思いや意向を聴き取る工夫をしたり、担当者による連絡ノートで本人の思いを職員間で共有している。思いを汲み取る社内研修を開催している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをしっかりと取りながら、ご本人やご家族より、お話を伺い、なじみの暮らし方に近い、生活の場の提供をご案内出来るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の担当職員を決め、きめ細かいサービスの提供を行っています。心身の状態の小さな変化に気づくことが出来るよう毎日、記録をし、必要時には、カンファレンスにて意見交換を行い、利用者様の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の希望や思い、日々の様子を踏まえて、ご家族の希望や考え、担当職員の意見等、様々な職種の意見を反映し、現状に即した介護計画を計画作成担当者が作成を行っています。	個別健康チェック表や日々の介護日誌から、利用者の特徴や状態を把握している。自立支援に向けて、それぞれの専門的立場から3ヶ月に1回見直しを行い、現状に即した介護計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、介護記録、申し送りノートへ記載、朝のミーティング等で話題を出し、スタッフは、情報を共有する事が出来るようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多職種連携を心掛け、ご利用者の状態をグループホーム専属の職員だけではなく、必要時には、他部署や多職種職員の力を借り、ニーズに反映する事が出来るように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一般ボランティアの受け入れや、社内ボランティアの協力を得て、ご利用者の生活に潤いがあるよう支援を行っています。また、社会より孤立をしないよう、外へ出ていく事が出来る、イベントの企画を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より、ご本人様、ご家族の意向を伺い、主治医との連携を行っています。基本、ご家族に受診はお願いしているが、緊急時。必要時は施設内看護師の状況確認、アドバイスを頂き、職員が、受診対応を行う等の対応をしている。	家族や本人の希望による主治医で、受診には家族が付き添い、緊急の場合は職員が対応している。家族の意向によるセカンドオピニオンの相談や訪問看護師によるアドバイスを受け、医療連携を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内看護師が、平日、午前中に、訪問を行い、様子の確認を行っている。また、急変時、何かあった時には、部署間で連絡を行い、ご利用者の対応を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の入院時は、入居中の様子や、薬の情報等をまとめ、医療機関へ、報告を行っています。医療機関で行われるカンファレンスにも参加しています。退院時には、病院からの情報提供をお願いし、連携を取っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「紙ふうせん看取り方針」を基本に、「ご利用開始の際、重度化や終末期対応について説明を行い、状況に応じ、その都度話し合いを行い、ご利用者や、ご家族の意思を尊重し、医療機関、施設内職員と話し合いを行い、支援に取り組んでいます。	看取りについての指針が作成されており、入居時に利用者や家族に終末期や事業所で可能な対応について説明をしている。利用者の入退院には職員が同席し、その都度家族や医療関係者と話し合い、介護計画を作成して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応やAEDの操作訓練は、消防署に代表者が毎年講習に参加をし、その後、内部研修を行い、正しい使用方法を訓練しています。また、緊急時対応の意見交換を行い、マニュアル等の作成もその都度見直しを行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内防災訓練や、会社全体の防災訓練に参加を行い、シュミレーションを行う等確認をしています。また、疑問に思った事を報告し、解決できるように施設全体で取り組んでいます。矢崎自治区との連携や、警備会社との連携の確認、協力の要請を行っています。	本部自治区内の独身寮などから、いざという時の協力を取り付けている。地域のハザードマップから、夜間・火事・地震(火山噴火)などの訓練を行い、運営推進会議でも議題に取り上げて話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者は人生の先輩であり、1人の人として、敬う気持ちを忘れずに支援をしています。言葉遣いに気を配り、スピーチロックなどを行わないよう、声掛けを行っています。	プライバシー保護に関するマニュアルや個人情報情報の取扱いについての書類があり、研修を行っている。毎月のカンファレンスで振り返りを行い、職員は利用者によく丁寧な声掛けで接していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉での思い以外の非言語的な思いを気づき、汲み取る事が出来るよう、ご利用者に寄り添い、ご自身の意思を表現出来る環境作りの支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課はありますが、一人一人の意向に合わせ、自宅と同じように自由に過ごして頂けるように配慮しています。職員の都合ではなく、ご利用者本位に立つように伺いながら、支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい、暮らしを行う事が出来るよう、お好みの服装をして頂いている。必要に応じては、アドバイスを言ったり、介助を行うようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人や、ご家族から聞き取りをおこない、対応をしています。また、イベント食の時には、ご利用者や、ご家族様の意向を踏まえ、食事形態の工夫を行う等、食事を楽しんで頂けるよう、支援を行っています。	認知症改善に効果があるといわれる、法人グループ内で収穫されたメロンを取り寄せたり、玄米やギャバなどを食事に取り入れたりしている。利用者の要望に応えられるように工夫し、職員と食事を一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを行い、必要時は、声掛けや、その方にあった摂取方法を考え、過度な水分不足にならないよう支援を行っています。また、好みの飲料を飲んで頂けるよう、時間によっては、選択制で行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアのお誘いをし、習慣化しています。定期的に、歯科衛生士の訪問診療を受け、突発的な場合にも、歯科医に往診をお願い出来るよう、体制作りも行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェックや行動の観察を行い、一人一人の排泄パターンの把握に努めています。必要時には声掛けを行って排泄の自立、または現状の維持を行う事が出来るよう支援を行っています。	時間やタイミング・表情を見て声掛け誘導を行っている。便秘対策としては、食事と水分摂取に配慮し、中庭を中心に回廊になっている事業所内を歩いて運動を自然に取り入れている。トイレでの排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物や、運動のコントロールでも難しい場合は、主治医上申にて、内服処方を受け、対応をしています。個々の排泄パターンを把握し、なるべく自然に排泄が行えるよう、運動等にて解消出来るよう取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔保持の為、入浴は、ご本人の希望に沿う事が出来るような体制作りを行っています。また、グループホーム内の個浴での対応が困難な利用者様については、通所の機械浴にて、入浴を行い、個々にあった支援を行っています。	ほぼ毎日入浴しているが、本人の状態や医師の指導により、個々に合わせた入浴対応に取り組んでいる。事業所の浴槽使用が困難な利用者には、隣接するデイサービスの介護浴槽を使用し、状態に合った入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床から、就寝までの1日の生活のリズムを画一的にせず、その方の生活パターンに応じて、休息・睡眠をとって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書をファイルにまとめ、いつでも見れるようにしています。血圧の薬に関しては、バイタルチェックを行ってから服用をして頂いています。また、必要時には看護師にアドバイスを受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴からこれまでの趣味や嗜好を確認し、日々の支援の中で分かったことや変化に関しても記録をし、張り合いや、喜びのある日々を送って頂けるよう、イベントや日々の作業に取り入れるよう努めています、		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内や、敷地内の散歩の他、天気の良い日に、近くの公園や、観光スポットへ景色を見に行ったり、食レクの買い出しに出かける等、その都度、ご案内をし、ご家族にも時には声掛けを行い、参加をお願いしています。	天気の良い日に、敷地内の散歩や本部敷地内の購買部に散歩を兼ねておやつを買いに出かけている。車でスーパーマーケットへの買い出しや、希望による夜の外出として、地域のイルミネーションの見学等、計画を立てて外出支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際には、ご本人の預り金にて、お好きなものを選んで頂き、購入するお手伝いをしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望があれば職員が、仲介し、連絡を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が快適に過ごす事が出来るように、その都度、状況に応じ、対応をしています。	フロア続きで居間と食堂があり、居間のソファに座ってくつろぎ、食事の際には食堂に移動している。天気の良い日には食堂の窓から富士山や敷地の桜が見える。空気清浄機や加湿器が設置され、障害者の活躍の場として事業所内の清掃は依頼している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースや、個人の空間も大切に、思い思いに過ごす事が出来るよう工夫を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染の家具を持ってきていただいたり等、ご自分の部屋という意識を持って頂いたり、居心地がよくなるよう、ご家族にも協力を依頼しています。	居室の入口には花の名前の暖簾が掛けられ、全居室は床暖房で備え付けのクローゼットがある。嫁入り道具のタンス、家族や猫の写真、思い出の品等、本人の好みの物が置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや、福祉用具を使用しながら、安全に過ごして頂いています。また、居室や、トイレ等に、張り紙を行っています。		